

令和3年度 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

難民のための日本語教育初任教師養成
オンライン研修講座

公益社団法人 国際日本語普及協会



AJALT(公益社団法人 国際日本語普及協会)は、日本語を通して、文化や習慣を異にする人々が互いに理解し合い共存しあう社会をめざして事業活動を進めています。

多様な学習者に対するきめ細かい効果的な日本語教育の実践

多様な現場経験に基づき、対象別教材を開発



対象別日本語教育の
企画と実施



難民
年少者
外交官
ビジネスパーソン
技能実習生他

AJALTの主な事業



地域在住の外国人に
対する支援、協力



自治体及び国際交流団体等の主催する
日本語教師養成講座・ボランティア養成
講座の企画と講師派遣

教材開発と出版活動



教師養成プログラム
企画と実施

対象別教え方講座の実施・海外の日本語
教師研修会の実施等

受講生募集

文化庁 2021 年度 日本語教育人材の研修プログラム普及事業
主催：公益社団法人国際日本語普及協 AJALT



難民のための日本語教育 60 単位時間 初任教师養成 オンライン研修講座

後援：国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所・公益社団法人アジア福祉教育財団難民事業本部

日本がインドシナ難民を受け入れてから 40 年余、AJALT の教師は、条約難民、第三国定住難民と、一貫して難民の方々への日本語教育に関わってきました。この講座では、地域に広がる「難民等の背景をもつ方々」への日本語教育・支援について、受講者の皆さんとともに学び、考え、実践に繋げていきます。多くの皆様にご参加いただけますよう、Zoom によるオンライン方式で講座を進めます。全国各地からの皆様のご参加をお待ちしております。

■内容：前半の理解編は、主に難民政策、難民教育・支援の最前線にいる専門家、実践家、難民自身による講義やワークショップを通し、難民への知識と理解、共感力を育みます。後半の実践編は、難民への日本語教育を長年担当してきた教師の下での演習、AJALT が実施している難民を中心とした生活者のための日本語教室、地域の難民のための教室などの実践例紹介や参加等を通し、実践力を養います。なお、カリキュラム内容は『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)』決定版における「難民等に対する日本語教師【初任】研修における教育内容・目安」に準じます。

https://www.bunka.go.jp/saikoku/bunkashingikai/kokugo/kokugo/kokugo_70/pdf/r1414272_04.pdf

■日時：全 22 回

2021 年 7 月 7 日～11 月 6 日 毎週水曜日 18 時～19 時半・月 1 回土曜日 13 時～16 時 10 分(休講有)

※但し、「理解編」の第 1 回、第 4 回、第 5 回、第 6 回、第 11 回は終了時間が変更的になります。

詳細はプログラム内容をご覧ください。 ※1 単位時間=45 分

■会場：Zoom によるオンライン講座

■受講料：無料 (なお、資料代実費として 3,000 円程度を予定しております。)

※修了者には修了証をお渡しします。(全講座の 80% 出席が必要です。)

■定員：70 名

■申し込み期限：6 月 30 日(水)

■対象：次のいずれかに該当する方 *なお、2019・2020 年度の同研修の再受講受付はありません。

- ①日本語教育能力検定試験合格者
 - ②大学の日本語教師養成課程修了者/修了予定者
 - ③日本語教師養成講座 420 時間修了者
 - ④ ①②③と同等の能力を有する方
- (応募者が定員を超えた場合は、優先条件を満たした方の中から先着順にて決定いたします。)

■お申し込みはこちらから⇒ <https://forms.gle/SVinTAFt3eD5TZSm6>

※ご記入いただいた情報は厳密に本講座以外の目的には使用いたしません。



日本がインドシナ難民を受け入れてから 40 年余り、AJALT の教師は、条約難民、第三国定住難民と一貫して難民の方々のための日本語教育に関わってきました。

その知見を活かし、本講座では、地域に広がる「難民等の背景をもつ方々」への日本語教育・支援について、受講生の皆さんとともに学び、考え、実践につなげていきます。



今年度、初任教師養成研修プログラムは開発から普及へ移行

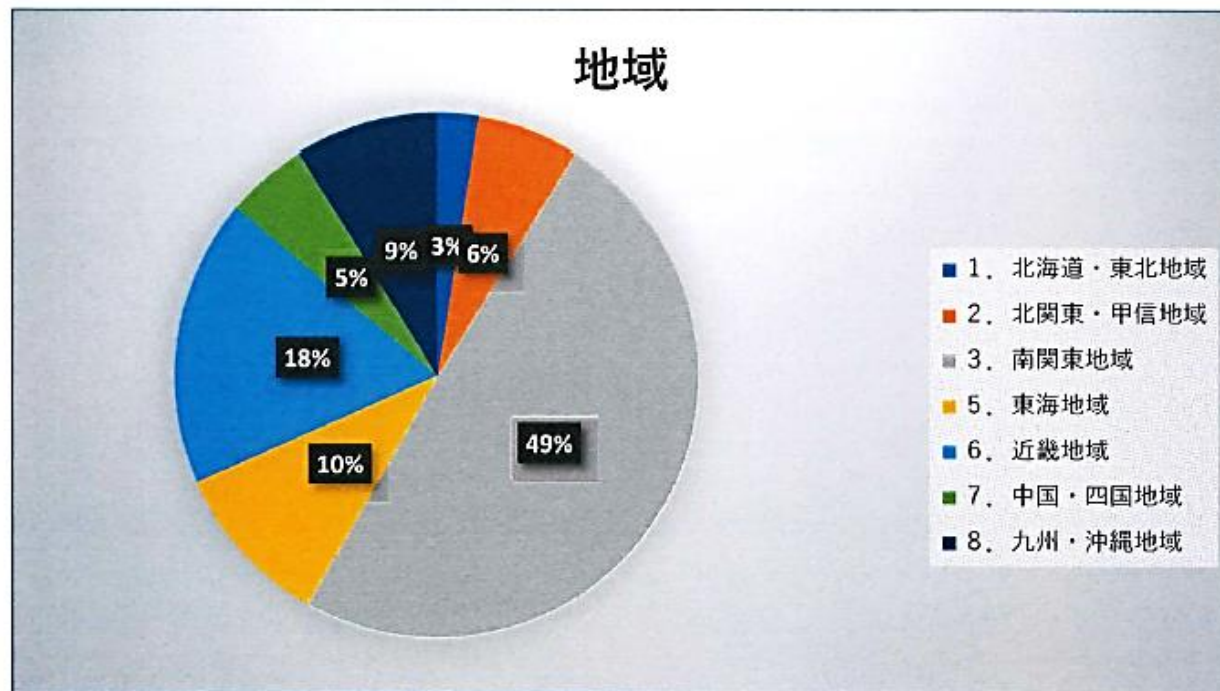
令和元年～2年度「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」
⇒ 令和3年度「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」

定員20名⇒70名に拡大

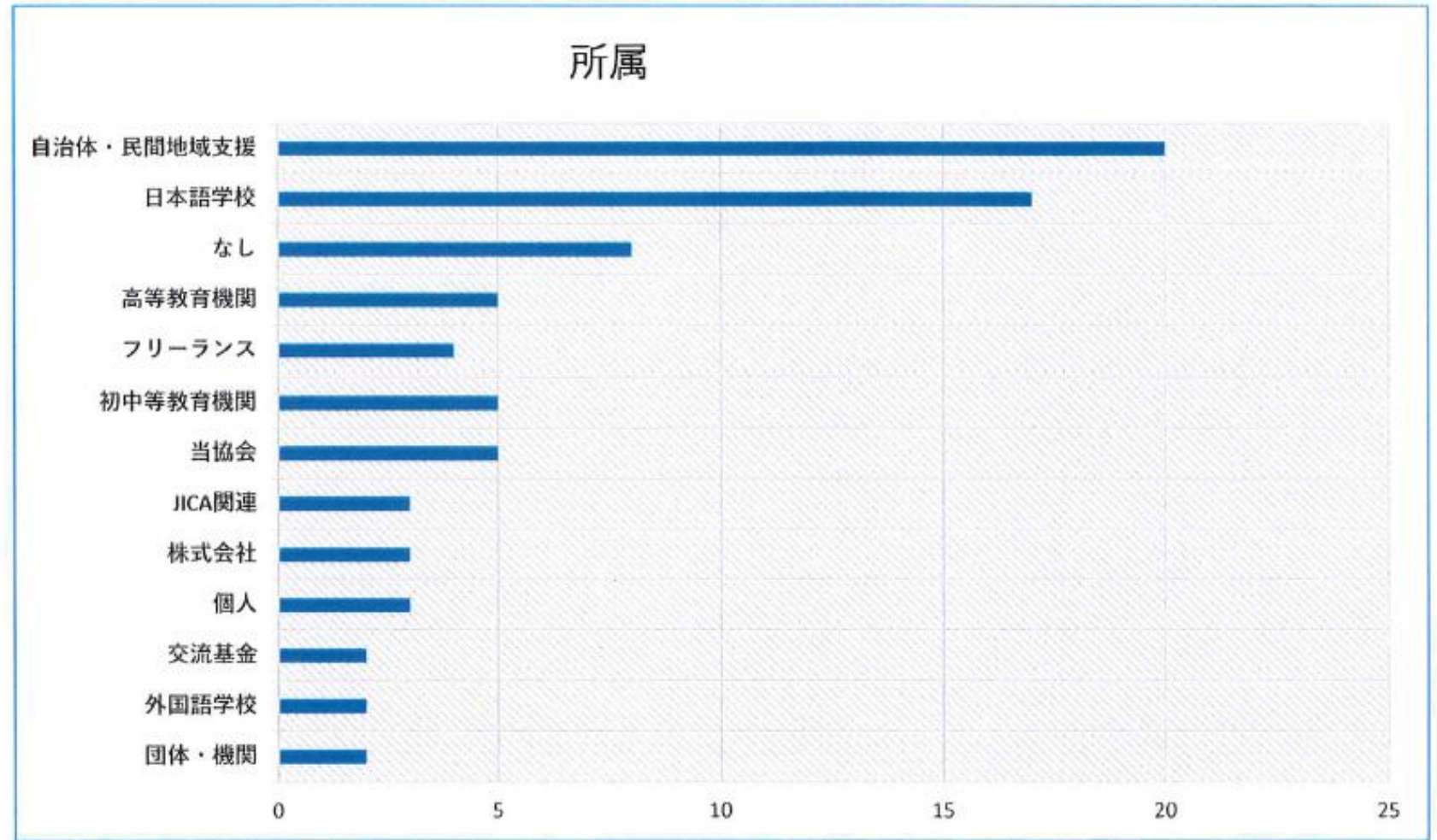
北海道から沖縄まで、全国8ブロックが対象



①【地域】	(人)
1. 北海道・東北地域	2
2. 北関東・甲信地域	5
3. 南関東地域	39
5. 東海地域	8
6. 近畿地域	14
7. 中国・四国地域	4
8. 九州・沖縄地域	7



②【所属】	(人)
団体・機関	2
外国語学校	2
交流基金	2
個人	3
株式会社	3
JICA関連	3
当協会	5
初中等教育機関	5
フリーランス	4
高等教育機関	5
なし	8
日本語学校	17
自治体・民間地域支援	20



受講生は、日本語学校や地域日本語支援に携わる方々を中心に、ほとんどが日本語教育関連の資格保持者

受講生と難民との関わり

難民を知り、関心をもつ方々

難民と難民に対する日本語教育についての知識はほぼゼロの状態から受講開始。すべての知識、難民当事者との出会いを新鮮に受け止め、吸収中。

難民への日本語学習支援入門期の方々

地域在住外国人への日本語教室等で、すでに難民が身近にいるが、難民への日本語学習支援の経験は浅い、あるいは、これから携わろうとしている。現場に照らして知識、理解を深めつつ受講している。

難民への日本語学習支援をさらに深めたい方々

すでに難民、また地域在住外国人への日本語学習支援の経験が長く、問題意識がある。自らコーディネータである場合も含み、現場の課題を解決する目的・意志を持って受講している。

研修講座の概要

期間： 令和3年7月7日～11月6日
原則毎週水曜日18時～19時半
月1回土曜日13時～16時10分(含休憩)

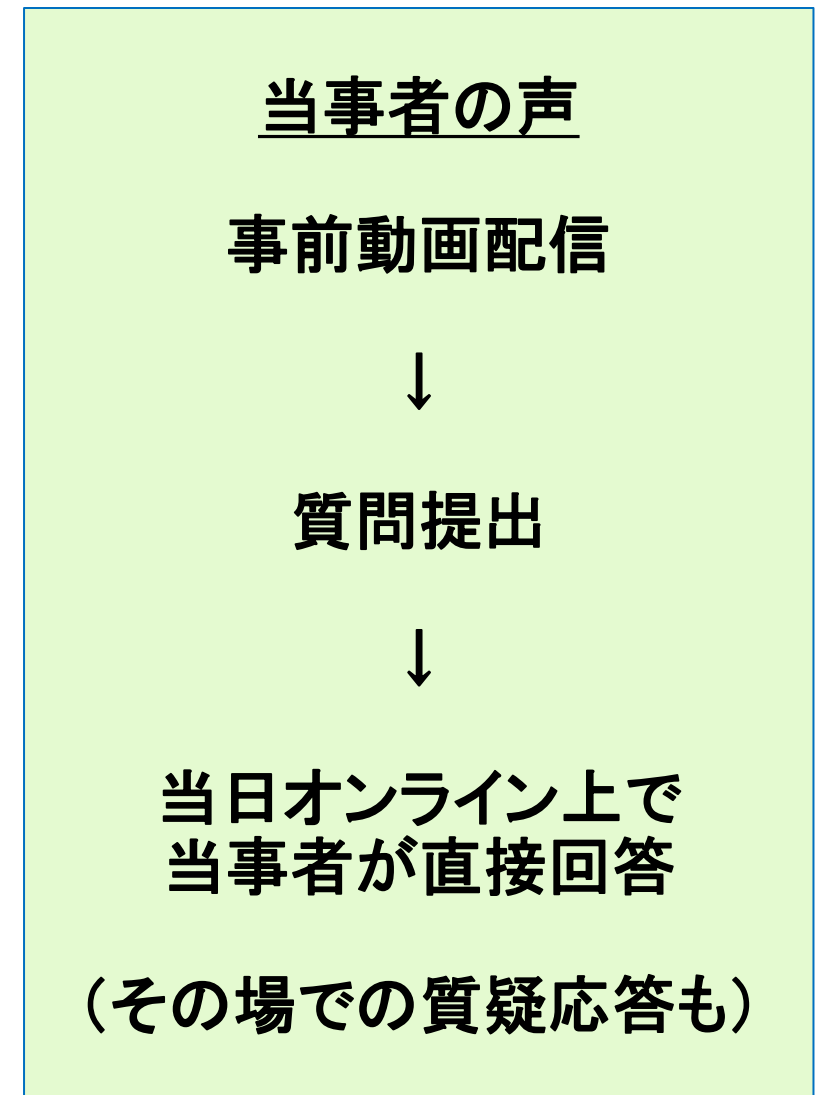
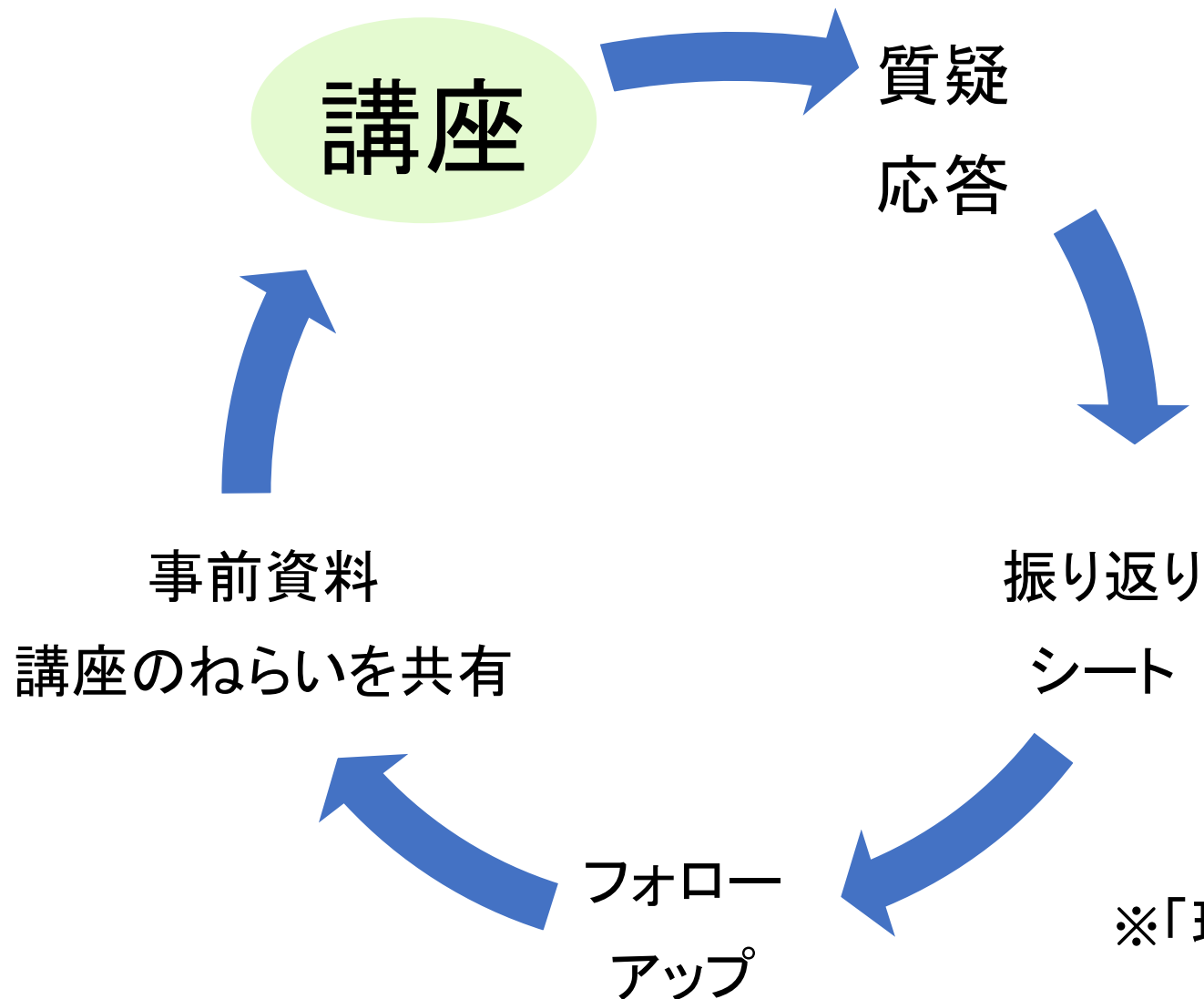
時間数： 60単位時間 (1単位時間＝45分)

会場： Zoomによるオンライン講座

理解編(34単位時間)

実践編(26単位時間)

各講座と事前・事後のフォロー



※「理解編」修了時に第1回レポート提出

前半「理解編」

主に難民政策、難民教育・支援の最前線にいる専門家、実践家、難民自身による講義やワークショップを通し、難民への知識と理解、共感力を育む。

回	月日	水:18:00~19:30/土:13:00~14:30	水:19:40~20:10/土:14:40~16:10(休憩有)
1	7/7 水 ※	日本の難民受け入れとこれから ※初回のみ17:30~	
		磯 正人 難民事業本部 (RHQ) 本部長	
2	7/14 水	世界の難民と UNHCR の役割	
		川内 敏月 UNHCR 駐日事務所副代表	
3	7/17 土	世界の難民の現状	ライフステージと日本語教育 I 移動とライフステージ
		橋本 直子 一橋大学准教授/元国連職員	伊藤 寛了 帝京大学専任講師
4	7/21 水	インドシナ難民への日本語教育	当事者の声から I インドシナ難民として ※20:10まで
		関口 明子 AJALT/RHQ 日本語教育参与	トラン フィ ハン 有料老人ホーム 介護福祉士 ほか
5	7/28 水	条約難民・第三国定住難民への日本語教育	当事者の声から2 条約難民として ※20:00~20:30
		小瀧 雅子 AJALT/前 RHQ 日本語教育監督者	カディザ ベゴム 早稲田大学大学院/(株)ファーストリテイリング
6	8/4 水	中国帰国者への日本語教育	当事者の声から3 中国帰国者として ※19:40-20:10
		小林 悦夫 中国残留孤児援護基金理事	小林 悦夫

前半「理解編」

主に難民政策、難民教育・支援の最前線にいる専門家、実践家、難民自身による講義やワークショップを通し、難民への知識と理解、共感力を育む。

回	月日	水:18:00~19:30/土:13:00~14:30	水:19:40~20:10/土:14:40~16:10(休憩有)	
7	8/11 水	異文化受容と適応-難民と受入社会双方の観点から		
		松尾 慎 東京女子大学教授		
8	8/18 水	難民のメンタルヘルス		
		鶴川 晃 大正大学教授		
9	8/25 水	ライフステージと日本語教育2 教育現場から		
		柴山 智帆 AJALT/RHQ 日本語教育相談員		
10	8/28 土	母語と日本語の狭間で一言語習得と喪失		難民等の社会参加と母語教育/当事者の声から4
		野山 広 国立国語研究所准教授		マリップ センブ NPO 法人 PEACE 理事長 マラン センジャ トイ 津田塾大学/NPO 法人 PEACE
11	9/1 水	ライフステージと日本語教育3 夜間中学から		当事者の声から5—第三国定住難民として ※20:10まで
		関本保孝 基礎教育保障学会事務局次長/元夜間中学校教諭		ソーベントウ 創価大学/夜間中学卒業生
12	9/8 水	ライフステージと日本語教育4 就労現場から		
		進藤 久瑠美 (株)ファーストリテイリング		
		山田 裕亮 (株)パナマシューズ取締役社長 渡辺 りえ WBB 理事 RHQ 呉地域定住支援員		

受講生の振り返りから

今回特に印象に残ったのは、「難民の自立支援が大事」ということです。（略）彼らがただ支援を待つのではなく、自ら生活を築いていき社会の一員になっていくということが、本人にとっても、受け入れる社会にとっても、双方が目指すべきところだと感じました。

インドシナ難民の方への「日本で生きていくための日本語」「第二の母語としての日本語」としての日本語指導には、潔い覚悟と運用力につながる楽しさを感じました。現在では、日本にいる多くの生活者としての外国人の日本語指導に、大変参考になっていると思います。

彼女の1時間にわたる動画と当日のQ&Aを通して、ロヒンギャ女性がより身近になった。とくに地方都市で生活するムスリムの女性が置かれている状況（略）について、これらを何とかするべく、女性のための日本語教室や子どもの学習支援の場を立ち上げたカディザさんは本当に素晴らしいと思う。

難民と一般外国人の違い

迫害を受けるおそれから、以下の様な事項を考慮する必要がある。
(詳細は後述)

	一般の外国人	難民
出身国での保護・保障	有り	無し
出国の理由	自発的	やむを得なく逃げてくる (例外：後発難民の場合等)
帰国の自由	自由	帰国できない

大和定住促進センター子どもクラスでの授業風景



難民・外国人として出会った課題



難しい日本語



高い物価

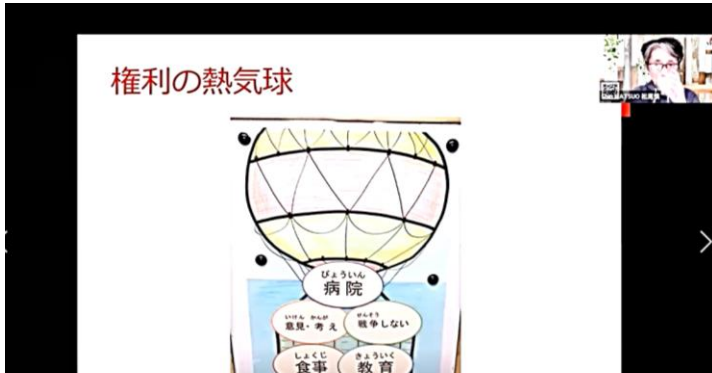


どこでも必要な保証人

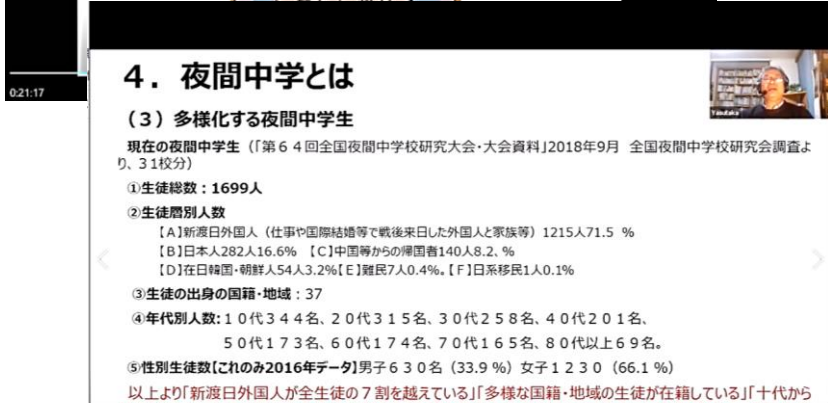


不安定の就労

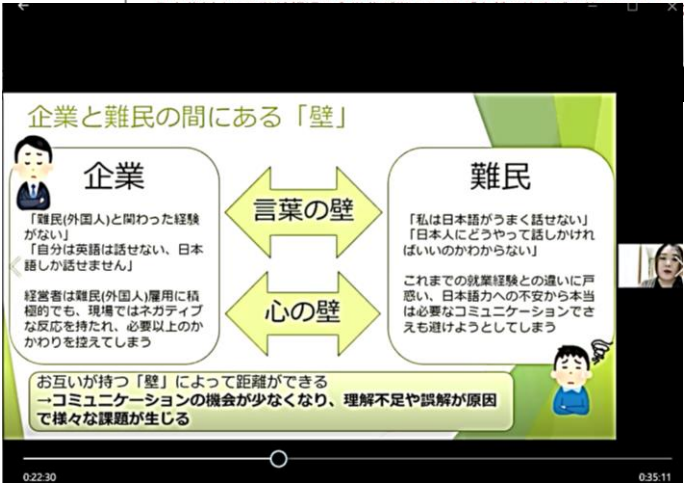
受講生の振り返りから



あるテーマに関し、互いに考えを述べ、コミュニケーションの中で価値観の違いに気づき、それを受容する。そして自分に変容が起こる。これこそが言語活動の本質だと思う。(略) 第二言語をなぜ勉強するのかという本質に迫った言語教育の形だと思った。



「多様性は社会全体を豊かにする」は、私自身もいつもキーワードとして考えていることですが、夜間中学という場に集まる方々は学習の機会を本当に必要としている人たちで、可能性や伸びしろがとても大きい人たちであるという意味で、個々の学習権保障の意味合いだけでなく、日本にとっても力を入れるべきことなのだろうと思いました。



これまでは、外国人の方だけが日本語を勉強したり、仕事を覚えたりなど、外国人だけに課題解決を求めるような日本語教育でしたが、これからは、企業も学んでいかなければならないということを学びました。日本語教育は、外国人と社会(企業(で働く人))をつなぐ役割が求められているのではないかと、強く思うようになってきました。

後半「実践編」

難民への日本語教育を長年担当してきた教師の下での演習、難民中心の「生活日本語教室」などの実践例紹介や参加等を通し、実践力を養う。

回	月日	水:18:00~19:30/土:13:00~14:30	土:14:40~16:10(休憩有)	
13	9/15	成人への日本語教育と教室活動		
	水	宮下 しのぶ AJALT/前 RHQ 主任講師		
14	9/22	教材・教具の使い方 RHQ の実践		
	水	有澤 田鶴子 RHQ 担任講師		
15	9/25	初等教育未修了者に対する日本語教育		プロソディ(詩と歌による学び)
	土	内藤 真知子 AJALT/元 RHQ 日本語教育監督者		内藤 真知子
16	9/29	年少者への日本語教育と教室活動		
	水	大久保美子 AJALT/RHQ 担任講師		
17	10/6	難民のための生活日本語教室I		
	水	小形真佐子 AJALT ほか担当講師		

後半「実践編」

難民への日本語教育を長年担当してきた教師の下での演習、難民中心の「生活日本語教室」などの実践例紹介や参加等を通し、実践力を養う。

回	月日	水:18:00~19:30/土:13:00~14:30	土:14:40~16:10(休憩有)
18	10/13 水	難民のための生活日本語教室2	
		受講生による事例発表およびディスカッション	
19	10/20 水	難民のための生活日本語教室3	
		受講生による事例発表およびディスカッション	
20	10/27 水	オンラインによる生活日本語の学習支援	
		宮下しのぶ・草島純子 AJALT/RHQ 主任講師	
21	10/30 土	難民クラスでの自己評価と定住後の評価1	難民クラスでの自己評価と定住後の評価2
		新野佳子 AJALT/RHQ 担任講師	新野佳子
22	11/6 土	振り返りと課題の共有1	振り返りと課題の共有2
		担当講師	担当講師

※「実践編」修了時に第2回レポート提出

受講生募集

文化庁 2021 年度 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

主催：公益社団法人国際日本語普及協会 AJALT



難民のための日本語教育 40 単位時間 研修担当講師育成 オンライン研修

日本のインドシナ難民受け入れから 40 年余、AJALT の教師は、条約難民、第三国定住難民と、一貫して難民の方々への日本語教育に携わってきました。その経験と知見を各地の皆様と共有し、難民等の背景をもつ方々への日本語教育・支援をともに学び、考え、実践に繋げる初任者研修を 3 年間にわたり実施しました。

この度、初任者研修を修了された方を対象に、「研修担当講師育成オンライン研修」を実施します。このプログラム修了後には、受講者が自ら研修講師を担い、さらに研修の企画に携わり、各地で定住難民への日本語学習支援者を育てられる人材となることを目指します。

全国各地からのご参加をお待ちしております。

■内容：難民等の背景をもつ方々への支援について、少人数のワークショップ形式で、受講生同士、現状と課題を共有しながら、相互に学びを深め、各自の実践をふり返り、改善していきます。同時に、各地で研修講師となり、さらに研修を企画するために必要なコーディネート力、ファシリテート力、ネットワーク構築力を培います。

■日時：全 10 回

2021 年 11 月 27 日～2022 年 2 月 19 日 原則土曜日 13 時～16 時 10 分（休憩有）

※但し、一部、曜日が変動的になります（詳細は、プログラムをご参照ください。）

※1 単位時間＝45 分

■会場：Zoom によるオンライン講座

※但し、2 月 10 日（木）～11 日（金）はスクーリングを予定（会場 AJALT）

■受講料：無料

※なお、スクーリング実施の場合は、交通費と宿泊費（規定に基づく）を主催者側が負担いたします。

※修了者には修了証をお渡しします。（全講座の 80% 以上の出席が必要です。）

■定員：10 名

■申し込み期間：10 月 14 日（木）～10 月 31 日（日）

■対象：2019 年度・2020 年度・2021 年度いずれかに文化庁委嘱「難民への日本語教育初任者研修」を修了された方/修了見込みの方

（応募者が定員を超えた場合は、主催者にて選考の上受講者を決定いたします。）

■お申込みはこちらから⇒ <https://forms.gle/BxxYvFF7HWW3hpN57>

※ご記入いただいた情報は無断で本講座以外の目的には使用いたしません。

（「個人情報保護方針」<https://www.ajalt.org/file/PMS-D-04-v23.pdf>）

後援依頼中：国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所

公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部（RHQ）

今年度、研修担当講師育成研修を実施

期間： 令和3年11月27日～令和4年2月19日
原則土曜日13時～16時10分（含休憩）
時間数： 40単位時間
（1単位時間＝45分）
会場： Zoomによるオンライン講座
但し、2月10日（木）～11日（金）にスクーリングを予定。（於 AJALT）
定員： 10名
対象： 2019年度・2020年度・2021年度いずれかに文化庁委嘱「難民への日本語教育初任者研修」を修了された方/修了見込みの方

プログラム概要

* 難民への日本語教育の知識・技能・姿勢をより深く養うため、少人数のワークショップ形式で行います。
受講生相互の主体的な学びを、日々難民への日本語教育に取り組む講師陣がサポートします。

回	月日	13:00-14:30/14:40-16:10 *青字は変則的になります。
※	11月17日(水)	受講者への事前オリエンテーション *18:30~19:30の予定
第1回	11月27日(土)	難民への日本語教育の現状と課題 ~各自が活動している地域の、難民を取り巻く環境、日本語学習のニーズ、取り組みの実践、問題意識を共有します。
第2回	12月4日(土)	ライフステージと対象別日本語教育
第3回	12月12日(日)	◆ 地域社会で暮らす
第4回	12月18日(土)	◆ 仕事に就き、職場で働く
		◆ 子どもを育て、家族を支える
		◆ 小学校・中学校で学ぶ
		◆ 高校・大学に進学して学ぶ
第5回	2022年 1月15日(土)	◆ 非識字の学び
第6回	1月22日(土)	◆ 高齢者として生きる
第7回	1月29日(土)	~難民等の背景をもつ方々が、日本で生きていくさまざまな段階、直面する課題に合わせた支援、また、地域社会の一員としての自己表現、自己実現を後押しする支援を考えます。 ~難民当事者のライフストーリーとともに聴く時間を設けます。
第8回	2月5日(土)	難民への日本語教育/支援における「評価」を考える ~ライフステージと対象別日本語教育について学びを深めた上で、「評価」の意味と方法について考えます。
※	2月10日(木)	【スクーリング】難民を中心とした「生活日本語教室」 ~当協会が近隣のお寺を会場に実施している教室を体験的に見学します。 *17:00~20:00(途中休憩あり)予定
第9回	2月11日(金)	【スクーリング】日本語教育以外の専門家との連携 ~法律家をはじめ、他分野の専門家を招いての講義、質疑応答を通じ、日本の地域社会で暮らす難民を多方面と連携して支えるためのネットワークづくりを考えます。 *10:30-12:00/13:30-15:00予定
第10回	2月19日(土)	【発表】「難民等の背景をもつ方々への日本語支援」 ~締まとめとして、各自の学び、実践の振り返り、今後の計画や提案について、発表を行います。 *当日は、難民への日本語学習支援活動中の方々、これから支援に携りたいとお考えの方々を、オンライン講演に招待の予定です。



研修担当講師育成研修プログラム概要

難民への日本語教育の知識・技能・姿勢をより深く養うため、少人数のワークショップ形式で行います。

受講生相互の主体的な学びを、日々難民への日本語教育に取り組む講師陣がサポートします。

※スケジュール、受講内容、講師については変更場合があります。

※スクーリングは万全の感染対策をとりますが、状況によってはオンラインに切り替わる可能性もあります。予めご了承ください。

ありがとうございました



公益社団法人 国際日本語普及協会

AJALT